

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	無
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ 有限会社 貞水企画室		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
制作団体所在地	〒 113-0034 東京都文京区湯島3-32-3		
電話番号	03-3831-1555	FAX番号	03-3831-1555
ふりがな 公演団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ 有限会社 貞水企画室		
代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士		
公演団体所在地	〒 113-0034 東京都文京区湯島3-32-3		
制作団体 設立年月	平成16年		
制作団体組織	役職員 浅野ゆき子、小池将直、浅野丈太郎	団体構成員及び加入条件等 講師・一龍斎貞友、一龍斎貞橘 他	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	小池岳士
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池将直

制作団体沿革	2004年に有限会社貞水企画室は講談界初の人間国宝、一龍斎貞水により設立された。 講談の普及 「伝統(講談)は今の時代に持て囃され、はじめて守ったことになる」 講談の継承 「先人から受け取った講談を後世に伝える」 講談界の第一人者として一龍斎貞水が果たすべき役割を具現化するのが主な業務。 古典講談のあるべき姿を継承しつつも、ジャズダンスや京劇など様々なジャンルとのコラボレーション、また特殊演出効果を駆使した立体怪談の考案など、常に新たな可能性を模索。伝統話芸・講談の魅力をも幅広い世代に発信し続けている。 主な過去活動実績としては・・・ 『伝承の会』の監修、助成 講談協会主催による、講談伝承を目的とした『伝承の会』の監修と助成を行っている。 この事業は『伝承』を目的として、会派の垣根を超え、東西の若手、中堅講談師(受講生)と講談師(講師)を結び付け、一年間の稽古を経て発表会を行っている。いまや講談界の一大イベントともなっている。 『東京文化財研究所・実演記録』 貞水のみ知る貴重な読み物(演目)を実演記録。 『学校寄席』の出演 講談普及のため年間30～70本の学校公演に参加など。 講談師・一龍斎貞水<人間国宝> 主な受賞歴 1975年 文化庁芸術祭優秀賞 1976年 放送演芸大賞講談部門 1999年 下町人間庶民文化賞 2002年 重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。 2003年 文京区区民栄誉章を受賞 2009年 旭日小綬章 座右の銘は「偉大なる未完成」。
学校等における 公演実績	講談普及のため学校公演を毎年30～70 平成21年度「本物の舞台芸術体験事業」参加作品 平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」参加作品 平成23年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品 平成26年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成27年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成28年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成29年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 平成30年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品 令和3年度「文化芸術による子供育成総合事業」参加作品 子供向けの著書には「一龍斎貞水の歴史講談」(フレーベル館)がある。

特別支援学校における公演実績				
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	無	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
	PW:			

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

対象	○	小学生(低学年)	○	中学生		
	○	小学生(中学年)				
	○	小学生(高学年)				
企画名	ー龍斎貞水プロデュース・「講談の世界」 (ワークショップ＝「講談教室」 本公演＝「講談○○亭」)					
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	※読み物(講談では演目を「読み物」といいます)は、年齢層や生徒さんの様子を見て、公演当日に選択をします。 ワークショップから本公演を通し、様々なジャンルの講談をご覧いただけます。 ＜ワークショップ＞ 軍談(修羅場よみ) 「三方ヶ原軍記」など ※クイズコーナーでは各ジャンルの特徴的な部分をご紹介します。 ＜ワークショップ→本公演＞ 連続講談 「はろはろ天狗」「海賊退治」「宮本武蔵」など決闘シーン(立ち回り)のある読み物 本来は一席の読み物を途中のいいところで切って、後半は本公演に ＜本公演＞ 二席の講談は ○いずれかに怪談物を入れる ○江戸と上方 ○新作と古典 など変化を付けて構成します。 読み物は 子供が登場する「越の海」など 決闘シーンが迫力の武芸物「荒木又右エ門」や「宮本武蔵」など おどろおどろしい怪談物「四谷怪談」「耳なし芳一」など 歴史上の有名人が登場する「太平記」など いずれも児童生徒さんに親しみ易い読み物を口演致します。 ※別添参照					
著作権	○	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況		
演目概要	※別添参照					
演目選択理由	これからの日本を担う子供たちに、講談を知っていただきたい・・・ 学校の先生方へ 「講談」は「講釈」と呼ばれていました。それは江戸時代、字の読み書きが出来なかった庶民の人たちに、浪人などの知識人が「太平記」などの歴史の本を解りやすく解説を交え、そう講釈をしながら読んで聞かせていたからです。 講談師が前に置く小机＝釈台には本来、本を置きます。今でも演目の事を「読み物」と呼び、講談師(真打)を呼称して「先生」というのは、その当時の名残なのです。講談師の祖先は、今の学校の先生みたいなものだったのです。 それが徐々に演芸として発達してゆきます。すると読み物は脚色に加えられ、話にメリハリを付けるために「張り扇」を叩いたりして、聞き手(お客様)が飽きないよう様々な工夫が成されました。 こうして講談は時代、時代の人々に愛され、今に繋がれて来ました。 講談には、日本人が持つ先人からの知恵、人を思いやる道徳心、そして日本語の美しさがあります。 「風化しつつある大切なこと」・・・講談を通して学んでいただけます。 ～講談から実際にこんなことが学べます～ ・言葉の大切さ(相手に伝わる話し方) ・人と人との交わり方(友達・親子・先生と生徒) ・目上の人との接し方や、言葉の使い方 ・面倒を見るということの意味(弱者や困っている人を助けること) ・作業も工夫をすれば、こんなに早く終わる などなど このプログラムを通して講談を知っていただき、「また観てみたい、聴いてみたい」と思っていただけで幸いです。					
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	●係として公演の運営を、一緒にお手伝いいただきます。 会場係(10名程度)＝会場のご案内 前座係(3名程度)＝講談発表会の高座返し(座布団をひっくり返す) ●ワークショップでは体験を随所に織り交ぜています。 またクイズ形式で問いかけながら生徒さんと一体となって進行してゆきます。 ●ワークショップでは全員がお稽古できる仕組みになっています。 →そして代表の生徒さんが本公演で発表。					
出演者	＜講談＞ 真打3名 ニツ目1名 前座1名 ＜色物＞ 1～2名 ※講談師は講談協会・上方講談協会・なみはや講談協会・大阪講談協会の各団体より出演。					
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 7 名 スタッフ: 5 名 合 計: 12 名		機材等 運搬方法	積載量: 2 t 車 長: 5.31 m 台 数: 1 台		

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の目 安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時	13時30分～15時	10分	15時～17時	17時
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		制限なし			
	本公演		制限なし			
ワークショップ 実施形態及び内容	※別添参照					
ワークショップ 実施形態の意図	～全体を通して繋がる体験形態～ <事前>「張り扇」の作成 ⇒<WS>お稽古(体験・創作) ⇒<本公演>発表 プログラムの各項目でポイントを絞り、講談がどんな芸能なのか？ 全体をとおり、知っていただける仕組みです。 様々な角度から講談を解説。飽きずにお楽しみいただける工夫を施しています。 <興味を持たせる> ・張り扇の作成…自前で作成する事で講談への興味を高める ・全員で生徒さん自前の張り扇を叩く <楽しく鑑賞させる> ・江戸、上方、女流の若手3名が、それぞれの特徴を生かし賑やかに進行 <理解をさせる> ・朗読、落語を比較して講談の特徴を解説 ・随所に実演を交えながら解説 <関心をさせる> ・講談調の迫力の語りを体感 ・学校エピソードを即興で仕立てられた講談で聴く (講談がどうやって創られるのか解説) <自己の表現力を高める> ・講談で自己紹介→手を上げた生徒さんは皆の前で発表					
特別支援学校での 実施における工夫点	今までの学校公演実績に基づいて対応いたします。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

リンク先

No.2

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

本公演演目

講演本公演プログラム

講演〇〇亭

本公演時間 90 分

※〇〇には学校名が入ります。

この日、体育館は講釈場になります。





講演最後の定席（講釈場）。本牧亭の様子。

本公演と合わせてお楽しみ



講演三二博物館（展示コーナー）

一龍斎貞水所蔵の珍しい
講演グッズを展示



張り扇

貞水が自身で制作し、
使用しているもの



釈台

講演最後の釈場・本牧亭で
実際に使用されたいいた
昭和初期の釈台

講演
番付表

相撲の番付表に
倣い、昭和初期
に作成された物



点取り本

お稽古を受けるときに
自身でポイントを記す本

火鉢
(手あぶり)

本牧亭でお客様
に配られていた
小さな火鉢



講演本
(速記本)

講演を速記して
本にしたもの
(明治～大正期)





本格的な釈場を再現

講談の興行（公演）が行われている寄席（劇場）を釈場と言います。江戸時代には江戸の各町内にあったそうです。当時、講談は庶民の娯楽の中心にあったんですね。



釈場の運営に参加

児童生徒さんにも半被を着けて、運営をお手伝いしてもらいます。



のぼり等会場の設営、入退場の案内



講談発表会の高座返し
(座布団・メクリをひっくり返します)



本公演演目

プログラム

- 一、 講談入門
- 二、 講談発表
- 三、 講談
～お仲入り～
- 四、 連続講談・後半
- 五、 色物 紙切りなど
- 六、 講談



講談には・・・

上方と江戸

新作と古典

どちらか一席に
怪談話を入れる

など
プログラムにアクセント
を入れ構成します。



さあ！
いよいよ開演です！



講談入門

～釈場へようこそ～

① ワークショップのおさらい

講談をより楽しく鑑賞してもらえるよう、ワークショップの内容から「張り扇」の叩き方など、演技特徴を中心におさらいします。



② 講釈場の解説

講釈場を再現した雰囲気たっぷりの舞台（高座）の中で、講談専用の劇場（寄席）である講釈場の説明をします。

前座さんのお仕事～

座布団の置き方に
ルールがある！

寄席文字（めくり）
の字の秘密★

舞台の事を高座って
なんで呼ぶの？



③ 本日の番組紹介

本日の番組（プログラム）のご紹介に合わせ、講談界の仕組みを簡単にご説明します。

講談の世界には
「前座」「二つ目」「真打」
と三つの階級があります

江戸と上方
の講談があります

- ◎ 「真打」になると周りの人から「先生」と呼ばれお弟子さんも取れるようになります。
- ◎ 休憩の事を「お仲入り」って言います。その意味。
- ◎ 色物は番組に色を添えるから色物。
- ◎ トリ（最後）とは最後に登場する出演者の事。今日は講談界の大看板真打が登場するよ。
- ◎ 江戸と上方の講談の違い。



講談発表会

お稽古（ワークショップ）で
選ばれた代表による発表

ワークショップお稽古した成果をここで見せよう！

3グループの中から
各代表チーム（三人一組）による講談発表



大きな声で、元気よく
講談をやってみよう！



三

講談

こわーい怪談や、にぎやかな上方講談などを、
お楽しみください。
一龍斎貞友 演目「ゆきんこ十二郎」など



お仲入り（休憩）



休憩中は展示を見たり、体験高座でお楽しみいただけます。

本公演演目

前回（前半）はWSです

四、連続講談（後半）〈海賊隠流、はらはら天狗、宮本武蔵など〉

※勢いのある若手講談師の講談で元気にスタート！

講談の本来の姿であり醍醐味である連続物を、
ごくごく短い読み物で再現

ワークショップ

（前半）

本公演

（後半）

あす、いふいふ
相まみえら事になりまゝ二人

五、

色物

びっくり仰天！

妙技の数々を楽しまう

紙切り、曲ごま、曲芸など「目」でお楽しみいただきます。

六、

講談

トリには、看板真打ちの登場
宝井琴星 演目「村越茂助左七文字」など

本公演演目

主な出演者

江戸（東京）



宝井夢梅



一龍斎貞花



一龍斎貞心



宝井夢星



宝井夢韻



一龍斎春水

(アニメの声優でもおなじみ)



一龍斎貞友

(アニメの声優でもおなじみ)



田辺凌鶴



一龍斎貞橘



神田春陽



田ノ中星之助



一龍斎貞寿



神田山鯨



宝井梅湯



宝井夢鶴



神田直花



田辺銀治



一龍斎貞鏡



田辺いちか



田辺駿天

上方（大阪）



旭堂南左衛門



旭堂南麟



旭堂南満



旭堂南潮



旭堂山南院



玉田玉秀次



旭堂南龍



旭堂南吾



旭堂南斗



旭堂南照

色物



林家正楽

<紙切り>



林家二楽

<紙切り>



三増欽之助

<曲こま>



柳貴家雪之介

<大神楽曲芸>



鏡味味千代

<大神楽曲芸>

本公演の様子

〇展示コーナー



▲演目パネル



▲講談ミニ博物館



〇班参加（会場班／前座班）

本公演演目



▲会場班のお出迎えの様子



▲使ったはっぴは皆で畳みます



▲前座班のお仕事（高座返し）の様子。座布団を返します

〇本公演



▲講談解説



▲講談発表会



▲講談師の白熱の高座。プロの芸に圧倒されます



リンク先

No.2

【公演団体名 有限会社 貞水企画室 】

演目概要

講談の世界

ワークショップ「講談教室」

本公演「講談〇〇亭」

※〇〇には学校名が入ります。この日、体育館は講釈場になります。

出演：講談協会・なみはや講談協会・上方講談協会・大阪講談協会

このプログラムは、故・一龍齋貞水の企画、構成によるものです。



故 一龍齋貞水

講談とは...

釈台と呼ばれる小机を張り扇で
バンバンと叩いて調子を取り、
独得の七五調で物語を語る、これが講談です。

講談を演じることを「読む」といいます。
これは本来、釈台の上に本を置いて読む事を由来とします。
また演目は「読み物」といいます。
読み物の題材は、主に歴史上で実際にあった出来事や人物。それをそのまま語るのではなく、
聞き手が楽しめるよう、史実をもとに壮大な脚色を加えてゆきます。
江戸の時代から今に至るまで、庶民の娯楽として脈々と生き続けてきました。
講談は日本が誇る伝統話芸です。

プログラムの目的と構成

日本の伝統話芸・講談の魅力を「知る」ため、
「学び」・「体験」・「鑑賞」の三つの柱で構成されています。

学び

実演・映像・クイズを交えながらの解説、
展示ブースなど様々な角度から講談を学ぶ。

体験

張り扇の作成、講談の創作、そして講談にチャレンジ！

鑑賞

本物の話芸を体感。



知る

講談の魅力と面白さを知ってもらう。
そして日本語が持つ本来の美しさを感じてもらいます。

ワークショップの事前

体験

張り扇を作ろう 世界に一つ、君だけの張り扇

※ワークショップまでに作成をしてもらいます。

※事前の作成が困難な場合は、体験用の張り扇を当方で用意します。

ワークショップと本公演で使用する張り扇を、
児童生徒さんに作ってもらいます。

ご準備ご用意いただく物



別紙「張り扇の作り方」
マニュアルを参考に
お作りください。
※動画「講談の世界」でも
作り方の実演があります。



教材

「講談への扉」DVD 事前学習に お使いください

※一龍斎貞水監修によるオリジナル動画です。

ワークショップの事前に、また本公演までの間の
教材としてご利用ください。

講談とは？

この動画を見れば
講談の一週りを知る事が出来ます。

- 講談のルーツ
- 枱台と張り扇
- 高座（舞台）の裏側
（楽屋の様子や前座さんの働き等）
- 読み物（講談の演目）
ごとの読み方や演出

などなど・・・



演目概要

リンク先

No.3

【公演団体名

有限会社 貞水企画室

】

ワークショップ実施形態
及び内容

ワークショップ プログラム

講談教室

ワークショップ時間 60分～90分

※児童、生徒さんの状況、学校様のご都合に応じて調整が可能です。

一、講談「三方ヶ原」～権藤掃部太～
二、講談の道具説明（数合と張り紙）
三、講談の読み方（読み方）
四、みんながハシ／ハシ！ 張り紙体験
五、講談ジャンルクイズ
六、学校エピソード講談
七、講談袖巻
八、連続講談（前半）

各項目で知っていただきたい
知識ポイント

を絞り、
講談がどんな芸能なのか？
ワークショップ全体の流れの中で、
講談を知っていただける工夫を施しています



ハシ／ハシ／ハシ！

講談教室スタート

若手3人が
明るく楽しく進行します！

自己紹介を兼ねて、
それぞれが簡単な講談の一節でごアイサツ



上方
(大阪)



江戸
(東京)



女流

主な出演者

 旭堂南樹	 玉田玉秀香	 田辺凌鶴	 一熊斎貞樹	 宝井琴鶴	 一熊斎貞寿
 旭堂南樹	 旭堂南岳	 神田山録	 宝井梅湯	 神田雛花	 田辺いちか



講談はもとより江戸（東京）と上方（大阪）に存在しています。
また近年では女流講談師が多く活躍するようになり、
今や全体の半数以上を占めるようになりました。
それぞれの特徴を生かしながら、賑やかに進行して参ります。



知識ポイント 講談の雰囲気

一、講談「三方ヶ原」～修羅場よみ～

武田信玄の軍が、徳川軍に城に攻めかかるシーン
講談の迫力の語りと、威勢よくバンバンと鳴り響く張り扇。

まずは講談がどんな芸能なのか？
講談の基本である「修羅場よみ」を鑑賞してもらいます。



「修羅場」とは激しい合戦の場面のことです。
講談師は入門すると先ずこの「修羅場よみ」の修行をします。
そこで腹から声を出すことを覚え、声を鍛えます。
そして講談の独特の調子と間の基本を取得するのです。



そして

武芸物（宮本武蔵など） ▶ 様々なジャンル

と修行は進んでゆきます。

知識ポイント 講談のルーツ、道具、演出法（動き）

二、講談の道具説明（釈台と張り扇）

道具の説明をしながら、講談がどんな芸能なのかを理解してもらいます。



釈台

Q 何で「釈台（しゃくだい）」っていうの？
何のための小机（釈台）？

A 『講談（こうだん）』＝『講釈（こうしゃく）』ともいいます。
講釈で使う道具だから釈台。分かり易く解説することを講釈する
といいますね。江戸の時代、一般庶民の多くは字の読み書きが出来
ませんでした。そこで達人などの知識人が、書にある本を面白く、
分かり易く解説（＝講釈）しながら読んで聞かされたのです。これが
講談のはじまり。釈台は本来、本を置くための物なのです。

※実際に「本牧亭」で使われていた、
昭和初期の釈台



釈台の上に本を置いていなくても、一席（演技）の終わりに講談師が
『一席の読み終わりでございます。』
って云うのは、その名残です。



講談師を先生と呼ぶのも、当時では学校の先生みたいなのがあったからです。

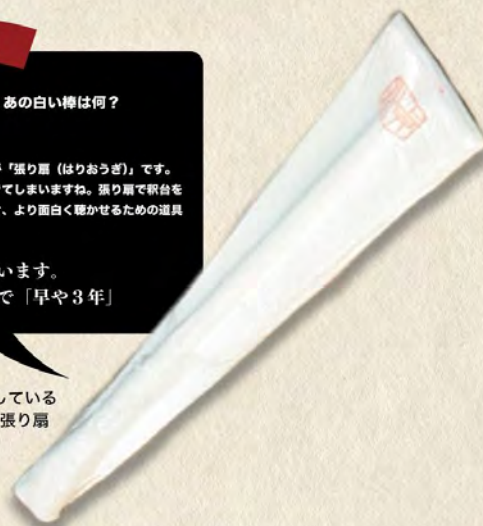
張り扇

Q 紙台をバンバンと叩いていた、あの白い棒は何？

A みんなにも作成してもらった、あれが「張り扇（はりおうぎ）」です。ただ読んでいただけではお客様が飽きてしまいますね。張り扇で紙台を叩きながら話にメリハリと調子を付け、より面白く聴かせるための道具なのです。

- 句読点の役割も担っています。
- 張り扇、ボンと一打ちで「早や3年」

※貞水が使用している
（作成した）張り扇



講師は自分の声の高さや、質に合わせて、
自分で張り扇を作成します。



扇を半分に割り、西の内という丈夫な和紙を巻き付けて作ります。

扇子・手拭

Q 扇子と手ぬぐいは何に使うの？

A 「講談」と並び称される日本の語彙二大語彙といえば「落語」ですよね。落語家は種ではないですが、何かに見立てて使用します。扇子は・・・広げて「提灯」、構えて「刀」など。手ぬぐいは・・・広げて「本」、そのまま「紙入れ（お財布）」など。



三、講談の読み方（語り方）

昔話「桃太郎」を講談調で聞いてみよう！



講談は講談調といって独特の語り方をします。
七五調を使い話に抑揚を付けながら語ります。
また話の最後に「切れ場」が付くのも大きな特徴です。



ここでは、他の話芸との語り方と演出の違いを聞き比べてもらいます。
そして講談の語り方の特徴を感じてもらいます。

講談師A(講談) 講談師B(朗読) 講談師C(落語)
3人の講談師が「講談」・「朗読」・「落語」の三役になり実演します。

滑らかで、みんなが
慣れ親しんだ感じですね。



句読点にバンバンと張り扇が打たれ、
話にメリハリがあります。



落語は講談と比べ
さらさらとしゃべる感じ、
そして最後にオチ（笑い）がありますね。



品があって桃太郎さんが
とても立派に想像されますね。
そして最後に「切れ場」という
話の締めがありました。
「見事、悪行重ねる鬼たちを
打ち負かしました桃太郎一行（バンバン）～」



四、みんなでバン！バン！

張り扇体験

二、三で講談の演じ方を知っていただきました。
ここでもう一度「三方ヶ原」を観ると
見え方が変わってきます。



最初にご覧いただいた「三方ヶ原」の中で叩かれていた張り扇。
これを全員でチャレンジしてもらいます。
自分で作った「張り扇」を使ってうってみよう！

一人の講談師が「三方ヶ原」を読みながら、キッカケを出します。
それに合わせて、児童生徒さん特製の張り扇でたたきます。

バン



指を1本出したら
張り扇をバン

バンバン



2本出したら
バンバン



バンバンバンバンバン



5本で
バンバンバンバンバン

「三方ヶ原軍記（みかたがはらくんぎ）」

①頃は元龜三年 申年十月十四日①、武田大僧正信玄は①、七重のならし、
ととのえて②、その勢、三万五千人②、甲府を雷発して①、遠州周智郡、
乾の城主、天野宮内左衛門景貫①、芦田下野守の兩人を案内者として①
同国飯田多々羅の両城へ攻めかかる。⑤

知識ポイント 講談のジャンル、演出（語り分け）、脚色

五、講談ジャンルクイズ

講談には「お相撲さん」「お侍さん」「泥棒」など色々な登場人物が出てきます。
「幽霊」なんかも登場します。そして主人公によって読み物のジャンルが分かります。

講談師はそれぞれのジャンルによって、やり方を変えて読みます。（語り分ける）

お相撲さんが活躍する力士伝では、力強く、どっしと。

幽霊が出て来る「怪談物」ではおどろおどろしくなど

映し出された絵（登場人物）がどんな人なのか、クイズで当ててもらいます。



軍談

合戦を語る。「三方ヶ原戦記」「太閤記」など



怪談物

お化けが出てくる怖い話
「四谷怪談」など



白浪物

泥棒さんが大暴れ
「鼠小僧」「石川五右衛門」など



赤穂義士伝

赤穂浪士の仇討ち



武芸物

剣豪がバツバツと大活躍
「宮本武蔵」
「荒木又左衛門」など



政談

大岡越前守などの名裁き
「大島屋騒動」
「永戸黄門漫遊記」など



お家騒動物

家督争いや、権力争いなどの内部抗争
「加賀騒動」「伊達騒動」など



力士伝

お相撲さんたちが登場する話
「寛政力士伝」など



答えが出たところで、
講談師がその有名なワンフレーズを実演して見せます。

「講釈師、見てきたような嘘をつき」と昔から言われています。

講談師は自分が実際に行ったことも、
見たことも無い時代や出来事（話）に「尾ひれはひれ」を付け、
それをリズムカルな講談調で、
荒唐無稽な話をあたかも本当の事のようにしてしまうのです。

講談はこんな風に大げさな脚色をします。

槍をとった清正、ひとつばらいで 10 人、ふたつばらいで 20 人、みつばらいで 30 人～

見事、扇の的を射抜きました那須の与一、うわーっと上がった図の声はもの凄く、
なんと太平洋を越えてハワイまで轟いたと申します。

ワークショップ実施形態
及び内容

知識ポイント 講談はどうやって出来上がるのか

☆、学校エピソード講談

キミの学校のエピソードを
即興で講談にします！

講談師は、取材→脚本→演出→演者を1人で行います！



現代では一話読み切りが多いですが、本来の講談は、
講談師は現地に赴いて、詳しく調べ、それを本におこし、脚色（演出）を加え、
自身で演じていました。『清水次郎長伝』などはそのよい例です。

「講談は嘘と本当の丸木樫」大きく脚色した話に、
本当の部分（距離や景色など）を織り交ぜることで、話に信憑性を持たせるんですね。



リポーターの役



そこで起こった出来事
（事件など）を調べる

脚本家の役



それを台本に起こして
（書いて）

演出家の役



そこで面白くなるよう
演出を加え

演者の役



それを自分で演じる

こうして
初めから最後まで全てを
一人でやってしまうのです。



ワークショップ実施形態
及び内容

ワークショップ当日の朝、講談師が学校の先生に取材をし、学校エピソードを聞き出します。

その材料をもとに脚本を書き、演出を施し、皆さんの目の前で披露いたします。

身近な校内ニュースを講談調で聴くことで、
興味・関心がさらに広がります。
当日作成のため、学校で起こった旬な出来事をお聞かせ下さい。

実例1 ○年○組の○○君が、柔道の大会で優勝したこと。

火の国熊本本の柔道大会において 132 / ●年●組、●●君がなんと 132 /
優勝したのであります。132 / 132 / 132 132 /
決勝戦では両者ともしのぎを削る厳しい戦いの上 132 /
勝利を収めた。ここに未来のエースが誕生するのであります。

実例2 飼育係が可愛がっていたウサギが、赤ちゃんを5匹も生んだ。

彩の国さいたまの●●小学校において 132 / ●月●日 132 /
春先の訪れとともに幸せなニュースが舞い込んできました。132 /
皆に愛されているウサギのピョン吉に 132 /
子供が4匹誕生したのである 132 / 132 /
子供たちは皆に愛され、めでたく幸せに暮らすのであった 132 / 132 / 132 132 /



体験セ、講談にチャレンジ

大きな声で発声

其の一 全員による体験！

遠くまで聞こえる声で、ハッキリと読むことが大事です。

背筋を伸ばして正しい姿勢で。大きな声で。

① 講談師お手本を見せます。



② 全員で一行ずつ復唱してもらいます。



③ 手を挙げた生徒さんに高座でやってもらいます。

我こそは〇〇学校〇年〇組
リフティングにかけては
誰にも負けぬ〇〇(名前)である
我と思わんものは
尋常の勝負におよべ

※セリフをプロジェクターで

ゲーム好きにかけては・・・

メダカの飼育にかけては・・・

など自由に
自分が得意なことを入れます。



※たくさんの生徒さんが手を挙げる、大人気のコーナーです。

体験ハ、講談にチャレンジ

より講談調で発声

其の二 3グループに分かれてお稽古(体験)！

低学年・中学年・高学年の3グループに分かれてお稽古をします。

3人一組で講談の一説をやってもらいます。

※中学校では学年ごとにグループ分けをします。



次回（後半）は本公演で

九、連続講談（前半）〈海賊退治、はらばら天狗、客本武蔵など〉

講談は本来、連続物といって何席もあるものです。
あえて、面白くなるところで終わり、また次回に繋ぎます。
現在の、テレビドラマみたいなものです。

※現代はほとんど一席（一話）読み切りで口演しています。

海賊退治

ワークショップ

笹野権三郎という強い侍が風早丸という船に乗る、
瀬戸内海で海賊が現れ船を襲う権三郎バツバツと海賊達をやっつけて行く、
ついに現れた海賊の大将西海灘衛門
「さぁこれから権三郎と西海灘衛門の血闘の決闘の火蓋が切って落とされる事となる、
ここからが面白い所ですが、残念ながらお時間となります」まいま！たろうぞ、
この続きは本公演で申！上げさせたいでございます。」

続きは本公演で

お楽しみに！

本公演

（軽く前回のあらすじを言ってから）
「さすいふいふ相まみえる事になりま！た二人」
（決闘のシーン）
「見事、海灘衛門を倒！た権三郎、
おかげでこれより瀬戸内海、勇心！で航行できるよになったと申！ます。
海賊退治大団円でございます。」
おしまい

ワークショップ実施形態
及び内容

ワークショップの様子



▲講談ワークショップの
スタートです



▲まずは講談を一席



▲解説（座布団について）



▲解説（手ぬぐいについて）



▲解説（張り扇について）



▲張り扇体験。
みんなでバンバン！



▲プロジェクターを使って
講談のジャンルの説明



▲ニュース講談。学校のエピソードを講談にします



▲代表者に講談の発声をチャレンジしてもらいます



▲学年毎などグループに分かれて講談のお稽古



▲各グループの代表者による
発表



▲ワークショップと本公演で
続く連続講談の一席

ワークショップ実施形態
及び内容

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	A12	分野	伝統芸能	種目	演芸	ブロック	A	区分	A区分
公演団体名	有限会社 貞企企画室				制作団体名	有限会社 貞企企画室			

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談
控室について	必要数 *	1室	条件	体育館近くの部屋 または舞台袖				可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			バン	1台			不可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン1台				可
	搬入車両の横づけの要否 *			要				可
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			30m以内				可
	搬入経路の最低条件							—
	理由							
	設置階の制限 *			問わない				可
	搬入間口について 単位:メートル	幅	1.5	高さ	2		可	
	WSIについて	参加可能人数	制限なし					可
学年の指定の有無 *		なし	指定学年 *				可	
所要時間の目安 単位:分		60～90分					可	
会場設営・本公演・メインプログラムの 所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
本公演について	鑑賞可能人数		制限なし					可
	舞台設置場所 *		体育館のステージ上					不可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	6	奥行	3.5	高さ	指定無	可
	体育館の舞台を使用 する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			要			可
		舞台袖スペースの条件 *			着物を着た状態で通り抜けられる程 度に、荷物が無い状態			不可
		緞帳 *	不要		バトン *	不要		可
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				可
	ピアノの調律・移動の 要否 (調律費・移動費は経 費対象外です)	指定位置へのピアノの 移動 *	不要	※指定位置は会場設置図面 にて御確認ください。			—	
		ピアノの事前調律 *						
	フロアを使用する場 合の条件	バスケットゴールの設置 状況 *	格納されていれば可					不可
	公演に必要な電源容量		30	※主幹電源の必要容量				可
	その他特記事項							応相談

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	1.5	高さ	2
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		30m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

